

令和8年度第1回おおぶ文化交流の杜図書館運営委員会 議事録

日時：令和8年6月22日（月） 午後1時から午後2時20分

場所：おおぶ文化交流の杜図書館 サポーター室2

<出席委員> 6名（敬称略）

松岡 礼子（至学館大学准教授）委員長

鈴木 善博（人間環境大学准教授）副委員長

加古 有子（名古屋学芸大学教授）

神田 由美（図書館サポーターズクラブ）

赤堀 路世（大府市国際交流協会）

竹内 紀人（知多メディアスネットワーク株式会社）

<事務局>

市民協働部長

文化交流課長、文化振興係長、文化振興係主査、主任

おおぶ文化交流の杜図書館長、チーフ

<傍聴者> なし

1 委員・事務局自己紹介

席順に委員・事務局自己紹介

2 委員長・副委員長選出

委員長に松岡委員、副委員長に鈴木委員を選出

3 委員長・副委員長あいさつ

（委員長）今年は、アローブ図書館が同規模自治体の中で10年連続貸出冊数全国1位となっただけでなく、「令和8年度子どもの読書活動優秀実践校・園・図書館・団体（個人）に対する文部科学大臣表彰」を受賞し、嬉しいニュースが重なった。このような華やかな年に委員長として再び図書館運営に携わることができ、光栄に思う。引き続きよろしくお願いする。

（副委員長）委員に就任して7年目になる。こどもが読書に興味を持つためには、保護者へのアプローチが重要であると考えている。また、職業柄、地域を巻き込んで図書館の活性化に貢献したいと思っているので、引き続きよろしくお願いする。

4 施設概要説明

資料に沿って図書館長説明

5 議題

(1) 令和7年度第4四半期事業実施報告について

※資料1～5に基づき館長説明

①令和7年度第4四半期施設利用状況

②令和7年度第4四半期蔵書貸出統計

③令和7年度末までの地区別登録者数、貸出者数

④令和7年度第4四半期事業実施報告

⑤発生した事故・ご意見

(2) 令和8年度事業計画について

※資料6・7に基づき図書館長説明

(3) 読書活動推進計画2026の改訂について

※資料8-1・8-2に基づき文化振興係長説明

(委員長) 委員アンケートの回答内容を組み込んでいただき、具体化ができそうな案が多い。

(委員) 読書量が読解力への影響が高いということで、幼少期からの働きかけが大事。不読率が上がってきており、目標値とかけ離れている印象。

(事務局) 国においても高い不読率が続いている。第6次大府市総合計画の指標でもあるため目標値の修正は難しいが、新たな指標の追加を検討しており、OECDの調査においても「活字にふれること」に着目しているため、本市独自の活字習慣率を測っていききたい。

(事務局) 市民意識調査の対象は18歳以上であるため、こどもに対する大きなアプローチをしても不読率に反映されてこないのが課題。例えば現在、小中学校に一人1台ずつタブレット端末を導入しているため、タブレット端末経由で小中学生にもアンケートを実施することで、市民意識調査に加え、こどもの不読率も調査していききたいと思っている。

(委員) 活字習慣率もどこかで公表する予定はあるのか？

(事務局) 公表していきたい。

(委員) 委員アンケートの回答内容を多く組み込んでもらった。不読率について、神田小学校区が下がっている（改善している）。大人（18歳以上）の数値なので一概に比較できないと思うが、何か取り組んだのか？また、東山小学校区と石ヶ瀬小学校区は逆に上がっている。何が起きたのか？例えば転入した人が多く、図書館を利用していないのだろうか？神田小学校区の改善理由も見つかりと良いと思う。

電子図書については小学校でも漫画が人気だと聞いている。先生たちも同様

に感じているということが資料からわかる。

指標の見直し（電子書籍）について、例えば投稿した小説を読むサイトは含めるのか？アンケートに回答することもたちに、このような電子書籍の定義がわかるのか？そういう意味では活字習慣率は難しいと思った。

「家読の日」があってもよいのでは。

神田小学校区と吉田小学校区、図書館から遠いのでやはり登録率が低いのだとわかった。図書館に来るには交通手段が必要。吉田小学校区や神田小学校区はどうしても図書館から遠いので、例えば学校図書室や公民館の充実を先駆けて実施するのはどうか。

図書館スタッフのスケジュールも大変なのでがんばってほしい。

- （委員）無理のない数字で無理のない計画であることが前提。図書館からの距離の問題は愛着につながる。愛着は図書館の利用率や識字率、不読率につながる。アンケートの取り方も大事。18歳以上しか数値（不読率）に影響しないのに、こども向けに取組みをがんばるのは不読率には直接あまり関係がないということになるので、バランスは難しいと思った。

例えば、図書館から遠いエリアに図書館の仲間みたいな人をつくり、自分たちだけでなく周りの人も味方につけることが重要であるとする。この地域に人が集まるような連携が必要。

- （委員）図書館の Instagram がとても良いので、引き続き取り組んでほしい。

- （委員）地域ガチャのような、住んでいる場所によるアクセスの問題は難しいことである。私は幼少期の頃に巡回バスによる出張図書館が来てくれるのがとても楽しみだったのでぜひ復活してほしい。図書館を巡る漫画があるが、その中にも巡回バスが登場する。巡回バスが来るのをこどもたちがとても楽しみにしているという内容。

かわいいバスが来て特別感・非日常感がありワクワクした記憶がある。子どもがワクワクする仕掛けがあると良いと思う。

- （事務局）次回の指定管理者の契約更新で次の運営方法を見直すため、そのような巡回バスの検討も可能性としてはある。名古屋市の千種図書館でも出張図書館といったようなアイデアも目にするので、案としては考えられる。予算と人手も必要な話になるので、バランスを考える必要がある。

- （委員）キッチンカーならぬ出張図書館バスのようなイメージ。

- （委員）勤務先の大学で地域貢献率というものがある。大学では、産婦人科・小児科・高齢者のことなどをやっている。大学に来たくなるようなイベントやテーマを打合せしながら地域貢献でスタッフを派遣してもらい、大学でイベントが開催できたらと思っている。図書館に行きたいと思えるような、お得な情報が得られるようなイベントを開催するのはどうか。例えば、20～30代の間でNISAなどの資産形成が流行っているため、セミナーのような時代のニーズに合った企画を開催し、この機会に図書館へ来館して本を借りて帰ってもらう

ようなイメージ。大学との連携もできるのではないかと考える。

助産院など、本を必要としているところにPRをするのも良いと思う。

(事務局) 市民意識調査に設問を細かく書くと、細部まで理解して読んでいただくことが難しくなる。

公民館の図書室では特に図書利用啓発の企画はしていないので、図書館と何か連携するとか、テーマをつくって企画するとか、大事であると考えて。公民館の中でも貸出状況に地域差がある。生涯学習の観点からも何か企画をする必要があると思う。

地域貢献について、ブックスタートより図書館に来てほしいという思いもある。ブックスタートを実施するとすぐに不読率が解決できるという話ではない。子育て中の保護者は時間的な余裕もない。「親が図書館に行きたいと思える企画」を実施することが大事。例えばこどもの発達に悩んでいる親も多いので、何か悩み事(課題)があって、図書館に来たら解決できるようなイベント等の企画をすると良いと思っている。

(委員) 他の自治体では、ブックスタートだけでなく、セカンドブック、サードブック、フォースブックという形で、何度も絵本を贈呈するという事例もあるので参考にしていきたい。

以上